

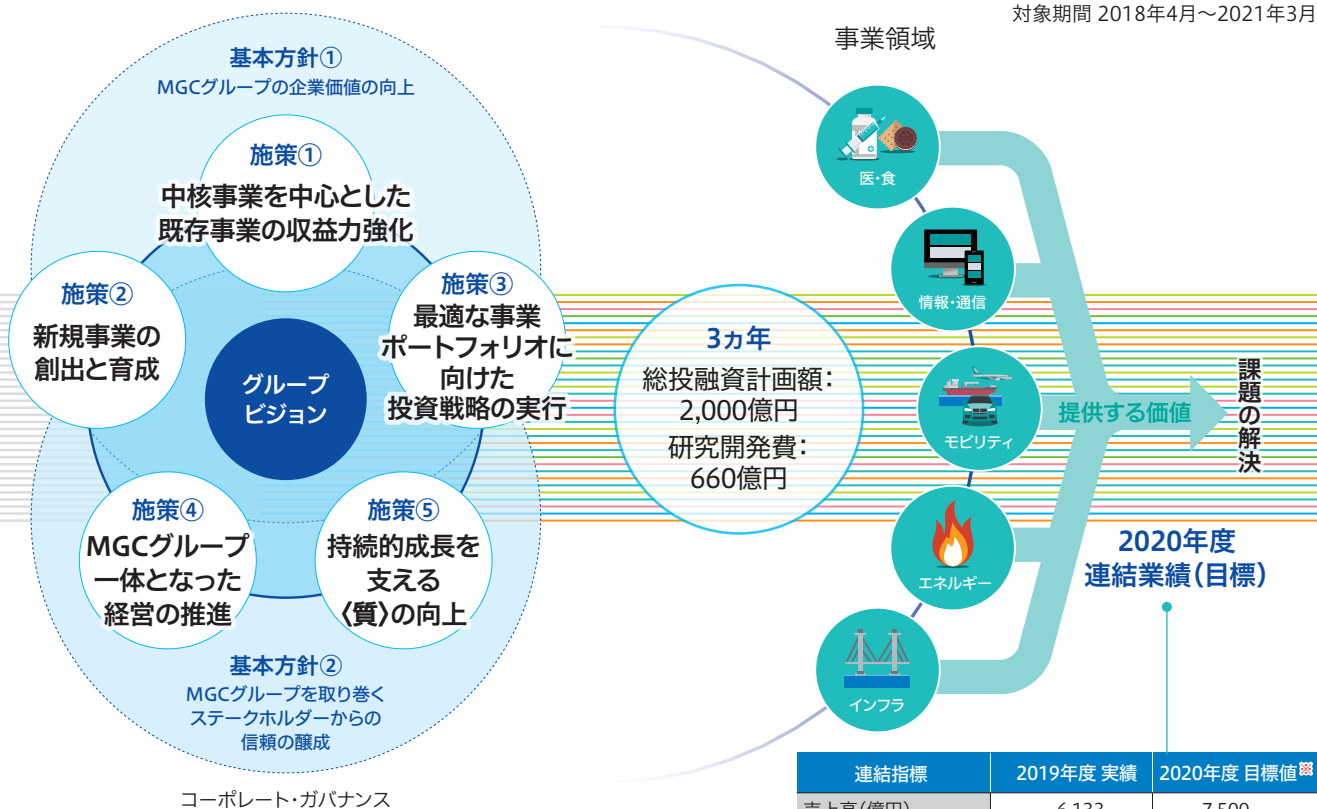
中期経営計画の進捗について

さらなる成長へ向けて5つの施策を推進

2018年4月からスタートした3カ年の中期経営計画「MGC Advance 2020」では、MGCグループビジョン「社会と分かち合える価値の創造」のもと、「MGCグループの企業価値の向上」と「MGCグループを取り巻くステークホルダーからの信頼の醸成」という2つの基本方針に基づき今後の成長に向けた5つの施策を推進しています。

中期経営計画 **MGC Advance 2020** 「MGCグループ もっと大きな夢に！」

対象期間 2018年4月～2021年3月



経営環境の変化と経営成績等の認識および対応

中期経営計画2年目にあたる2019年度の経営成績と最終年度の目標値には大きな乖離が発生しております。乖離の発生には、メタノール、ポリカーボネートをはじめとする汎用製品の市況が計画策定時の前提と比較して低迷していることなど、外部環境の変化が大きく影響しています。今後も、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を含め経済状況の変化・市況の変動により、収益状況に大きな影響を受けることも事実ではありますが、コロナウイルスの影響を受けにくい事業もあり、目標に少しでも近づけるべく、挽回を図っていきます。

具体的には、中期経営計画の2つの基本方針、5つの施策および3カ年の投融資計画2,000億円、研究開発費計画660億円を維持し、既存事業基盤の強化に資する戦略投資を積極的に実行するとともに、新たな研究開発体制のもと、グループ内外の技術・人員を最大限活用し、クロスインベーション・オープンインベーションなどによる新規事業の創出を加速させていきます。

事業における進捗と成果について

施策①③ | 機能化学品を中心に成長に向けた戦略投資を実行

メガトレンドに対する市場の変化やスピードを勘案し、機能化学品を中心に成長に向けた戦略投資を進めています。これまでに、北米の超純過酸化水素の新工場立ち上げ、鹿島工場における光学樹脂ポリマーの生産能力の増強を実施しました。また、基礎化学品においても、トリニダード・トバゴのメタノールプロジェクトで工場が試運転段階を迎えています。既存事業の収益力強化のため、技術の改良を進め、競争優位性の維持、効率的な市場展開を図ります。

今後は、BT材料についてタイ工場の生産能力の増強を推進するとともに、メタキシレンジアミン(MXDA)の新工場立ち上げや芳香族アルデヒド類の次期投資を計画するなど、事業基盤の拡大・強化を図っていきます。



北米 超純過酸化水素二つの新工場を建設



光学樹脂ポリマー製造プラントを建設



トリニダード・トバゴにおけるメタノールプロジェクトの推進



タイ 電子材料生産能力増強(2022年4月予定)

施策② | 「医・食」「情報・通信」「モビリティ」の領域を中心に新製品・事業開発に注力

従来の経営手法にとらわれず、他社との事業提携など経営資源を積極的に活用することで、「医・食」「情報・通信」「モビリティ」といった今後の成長が期待される領域で新たな製品・事業の開発に取り組んでいます。

医・食領域の抗体医薬やバイオプロダクト、医療包材、工場生産野菜をはじめ、情報・通信領域の「ネオプリム®」(耐熱透明ポリイミド)、モビリティ領域の固体電解質など、注力領域において新製品・新事業の開発に向けた取り組みを着実に実行しています。



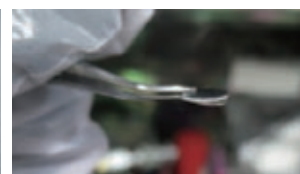
注射剤向けガラス代替容器「OXYCAPT™」の採用決定



工場野菜の生産工場竣工出荷開始



曲げることが可能な無色透明の樹脂フィルムワニス「ネオプリム®」を展開中



全固体リチウムイオン電池向けに使用可能な固体電解質の開発

施策④ | MGCグループ一体となった経営の推進

- 三菱ガス化学グループ3商社のMGCトレーディング(株)[※]への統合合併、(株)東邦アーステック、日本ユピカ(株)の連結子会社化を進めました。
- 三菱ガス化学グループの情報を適切に把握し、グループ経営の効率化につなげるため、BMU(Business Management Unit)導入による連結での事業管理、経理・会計システムの共通化・統合化に継続して取り組みます。

[※] 2020年10月1日「三菱ガス化学トレーディング(株)」へ社名変更

施策⑤ | 持続的成長を支える〈質〉の向上

- スピード感ある全体最適経営の推進をねらいとして、組織変更を行いました。
- CSR経営のさらなる充実に向け、推進室の設置、マテリアリティの決定を行いました。
- コーポレート・ガバナンス体制の実効性ある運用と強化・充実を図ります。